

〈第 101 号〉

2021年3月1日 香川県教育委員会事務局 健康福利課

新採教職員カウンセリングを振り返って

この年度末で、10年間続けてきた市町立小中学校の新採教職員のカウンセリングの担当から退くことになりました。10年間で2千人以上の新採教職員の方と面談しました。

スタート時は、各市町教育委員会で面談を実施しましたが、2年目からは、教職員が極めて多忙なこと、また、実際に勤務されている学校環境も知りたかったので、こちらから 勤務校に出向いて面談をしました。

狭い県なので、簡単に行けると考えていましたが、校舎が見えどもなかなか正門にたどり着けない学校もありました。学校に着くと事務職員の方から「お待ちしていました」との言葉で勇気づけられたり、新採教員の授業見学、校長先生や保健室の養護の先生との会話で、学校や新採教員の様子がよくわかり、ある時には雑談もあり、振り返ると楽しいひと時でもありました。

また、多忙な職場環境の中、児童・生徒と真剣に向き合う新採教職員からは、多くのことを学ばせてもらいました。

10年間の感謝を込めて、新採教職員のカウンセリングで感じたストレスに強い方の共通点を三点に絞ってお伝えします。

1 同期生との交流を大切にしている

新しい環境の中では新たな出会いがあります。教職員は、各学校に分かれて採用されるため、校内に同期生がいないことが多く、当初は孤立しがちです。そこで、同期生に積極的に連絡して何でも話ができる友人を見つけて欲しい。一緒に学び、時には愚痴ったりできる友人の存在はその後の教職員人生の宝物になるでしょう。

2 相談力を身に付けている

ある新採の教員は「1学期は何も見えない真っ暗な中をがむしゃらに走っているみたい」と表現しました。誰でも最初は失敗の連続です。内省は大切ですがあまり自分を追い込まないで、迷ったら先輩に相談しましょう。この相談力がストレスに打ち勝つキーワードで人間関係を円滑にしてくれます。先輩教員も新採から相談されるとうれしいものです。

3 身近な先輩教員から授業や学級経営を学んでいる

理論と実践はどの分野にも重要ですが、最初に身に付けて欲しいのは実践力です。そのためには、先輩教員の授業の進め方、児童・生徒のほめ方や叱り方、騒がしい時の注意の仕方、保護者対応などを徹底的に学んでほしい。



最近では、本来の授業のほか、生徒指導、部活動指導など、教職員の長時間労働がクローズアップされ、教職員の働き方改革やメンタルヘルスが叫ばれるようになっています。教職員のメンタルヘルス対策として、面談させていただきましたが、そういう中で頑張っておられる新採教職員の方から、元気をもらったのは私の方でした。10年間のカウンセリングを通じて感じたことをお伝えしましたが、少しでもお役に立てば幸いです。ありがとうございました。

臨床心理士 廣田邦義

